

富士山北麓で夏期に観察されたコウライウグイス *Oriolus chinensis*岡久雄二^{1,2}・小田谷嘉弥³・小西広視⁴An observation record of Black-naped Oriole *Oriolus chinensis* on northern part of Mt. Fuji in summer.Yuji OKAHISA^{1,2}, Yoshiya ODAYA³, Hiromi KONISHI⁴

要 旨

2012年7月7日から7月8日にかけて山梨県南都留郡鳴沢村においてコウライウグイス *Oriolus chinensis* のさえずりが録音された。コウライウグイスは迷鳥であるとされるが、本観察例は鳥類の繁殖期にあたる夏期のものであり、さえずりが聴かれたことから繁殖の可能性を示唆するものとして重要であろう。

キーワード：観察記録，富士山北麓，さえずり，迷鳥

はじめに

コウライウグイス *Oriolus chinensis* は中国南部からインドネシア北部、ロシア南部、ウスリー地方、韓国、台湾にかけて分布するコウライウグイス科の鳥類である。北方の個体群は渡りを行い、インドからマレー半島で越冬する（日本鳥学会 2000）。日本には各地に迷鳥として飛来することがあり、疎林や農耕地で観察される（日本鳥学会 2000）。山梨県においては2000年と2001年に甲州市塩山で、2006年に郡内地域で観察されている（日本野鳥の会甲府支部・やまなし野鳥の会 2011）。また、埼玉県では複数年継続して夏期に観察されていたことがあり、全国で唯一1996年に繁殖が確認されている（埼玉県生態系保護協会 1996, 五百沢 2004）。

筆者らは2012年7月7日および7月8日に山梨県南都留郡鳴沢村においてコウライウグイスのさえずりを録音した。繁殖の状況については不明であるが、通常は迷鳥とされるコウライウグイスが夏期に観察されており、さえずりが記録されたことから、山梨県内でも繁殖を行っている可能性を示唆する記録として本観察例は貴重であると考え、ここに報告する。

観察日時と場所、声の特徴

2012年7月7日 (4:30~6:00, 晴れ), 7月8日 (5:30~6:00, 晴れ)。山梨県南都留郡鳴沢村 (35° 28' 39.12N, 138° 41' 42.89E, 標高985 m)。観察は100m程度離れた場所から行い、SAMSUNG社製のスマートフォンに内蔵されているICレコーダーを用いて音声を録音した。周辺は芝生のグラウンドの周囲にアカマツ *Pinus densiflora* やイタヤカエデ *Acer mono*、ヤマザクラ *Cerasus jamasakura*、シラカバ *Betula platyphylla* が植えられ

た人工林が点在し、民家、駐車場が立ち並んでいる。コウライウグイスと思われるさえずりは樹高15m程度の人工林およびそこから300m離れた樹高20m程度のアカマツ林の二か所から確認されたが、同時に確認できたさえずりは1個体分であった。観察されたさえずりは、「フィリッフィリー」と聞こえる単調な節（図1）を繰り返すものであった。節は0.36~0.487秒程度の時間長であり、3.35~3.56程度の休止をおいて再び同様の節が繰り返された。節の周波数の変化は小さく1600Hz~1800Hzであった。

種の同定

今回観察されたさえずりは1600Hz~1800Hzにかけての節を鳴くものであった（図1）。これは2011年に新潟県粟島において観察・録音された個体のさえずり（松田私信，図2）と酷似していた。新潟県で記録されたさえずりの周波数帯は1500Hz~1800Hzであり、今回の観察例とほぼ一致していた。また、節の時間長は今回の観察個体が0.360~0.487秒であるのに対して、粟島での観察個体は0.381~0.445秒であることからこの点でも酷似していた。

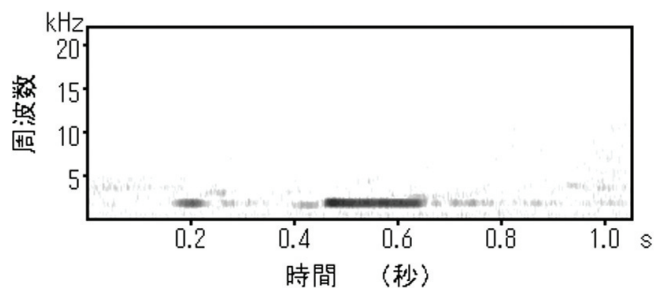


図1. 鳴沢村で記録されたコウライウグイスの囀り

1 立教大学大学院理学研究科

2 LASP富士山鳥類調査グループ

3 筑波大学大学院生命環境科学研究科

4 日本鳥類標識協会

Corresponding author : Yuji OKAHISA

E-mail : f.narcissina@gmail.com

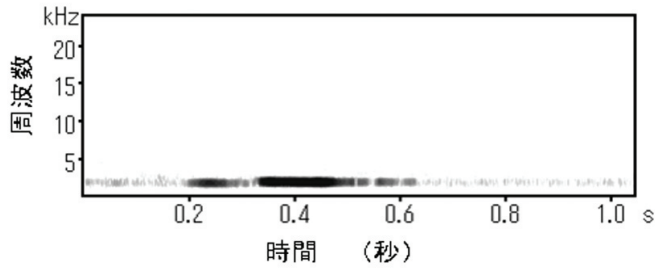


図2. 新潟県粟島で2011年に記録されたコウライウグイスの囀り

日本国内に生息する鳥種でコウライウグイスに比較的似たさえずりを持つものとしては、イカル *Eophona personata* があげられる。コウライウグイスは時にイカルの声に反応するが (Brazil 2009)、イカルは「キーキーコーキー」と聞こえる声 (図3, 上田1998をもとに作成) で鳴き、周波数は1800Hz~3600Hz、節の時間長は1.718秒であることから今回の音声とは異なっている。このほかに類似したさえずりを持つ鳥種は国内に生息しないため、観察された音声はコウライウグイスのさえずりであると同定された。

本観察例は個体を目視しておらず、さえずりのみの記録であるため、個体の正確な年齢や性別は不明であるが、一般に繁殖期には雄がさえずることから雄である可能性が高いと考えられる。

考察

山梨県鳥類目録によれば、コウライウグイスは山梨県内で3度観察されており、それらの観察例は6月から9月であるとされるものの繁殖につながる可能性を含むさえずりを観察したという報告はない。一般に鳥類はなわばり誘示や雌の防衛のためにさえずると考えられていたため (Gill 2007)、現時点での繁殖の有無は不明であるものの、本観察例は山梨県内でのコウライウグイスの繁殖の可能性を示す点で重要なものであろう。過去に埼玉県で繁殖した記録においては、1995年以前よりコウライウグイスが渡来するようになり、同所で1996年に繁殖したとされる (埼玉県生態系保護協会 1996, 五百沢 2004)。そのため、山梨県において現在は繁殖に至っていない場合であっても、今後近辺で繁殖が確認される可能性がある。今後は富士山北麓におけるコウライウグイスの繁殖の有無を含めて継続的なモニタリングを行う必要があるだろう。

謝辞

本原稿をまとめるにあたり、松田道雄氏にはコウライウグイスのさえずりの音源を提供いただいたほか、西教生氏と落合はるな氏には文献を提供いただいた。心より感謝申し上げます。

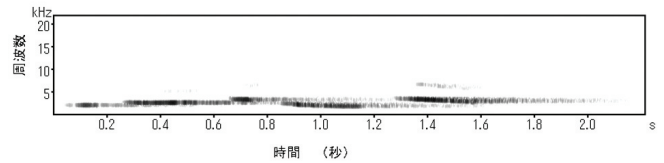


図3. イカルの囀り. 上田 (1998) をもとに作成

引用文献

- Brazil M (2009) Birds of East Asia : China, Taiwan, Korea, Japan and Russia. Helm Field Guides, A & C Black Publishers Limited, London.
- Gill F (2007) Ornithology third edition. W. H. Freeman Company, New York. (Gill F (2009) 鳥類学. 山階鳥類研究所 (訳). 新樹社, 東京.)
- 五百沢日丸 (2004) 日本の鳥550山野の鳥 増補改訂版. 文一総合出版, 東京.
- 日本鳥学会 (2000) 日本鳥類目録 (改訂第6版). 日本鳥学会, 帯広.
- 日本野鳥の会甲府支部・やまなし野鳥の会 (2011) やまなしの野鳥2011-山梨県鳥類目録vol1. 日本野鳥の会甲府支部・やまなし野鳥の会, 甲府.
- 埼玉県生態系保護協会 (1996) ナチュラルアイ8月号. 埼玉県生態系保護協会, 埼玉.
- 上田秀雄 (1998) 野鳥の声283. 山と溪谷社, 東京.